

令和 8 年度 東京都立六本木高等学校 学校経営計画

I 目指す学校

1 スクール・ミッション

基礎・基本を重点的に学ぶ教育課程、不登校生徒に対する通信及び校内別室指導による単位認定、企業への就業体験活動、デジタルの活用など、特色ある教育活動を通して、自他を尊重し、自ら継続して学び、未来を切り拓くことのできる自立した生徒を育成する。

2 教育目標

「見つけて」

学習や行事、部活動などを通して、自分のやりたいことや興味があること、自分の居場所を見つける。

「磨いて」

友達と共に学び合う中で、自分の個性や能力を伸ばし、自分を鍛え、磨いていく。

「未来を拓く」

自分に大きな可能性があることを知り、挑戦する意欲や態度を身に付け、自ら未来を拓いていく。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー（六本木高校で育む5つの資質・能力）

ア 社会を生き抜くための知識・技術

イ 伝える力

ウ 他を思いやる力

エ 自律する力

オ 将来を見通して生きる力

(2) カリキュラム・ポリシー（六本木高校の多様な教育課程）

ア いつでも・誰でも・どこでも学べる「教育課程」

イ 卒業後の自己実現を達成する「キャリア教育」

ウ 六本木生としての誇りを育む「特別活動」

エ 社会との関わりを意識させる「特色ある活動」

オ 健やかなチャレンジを後押しする「支援体制」

(3) アドミッション・ポリシー（六本木高校が求める生徒像）

ア これまでの生活を見つめ直し、学校に通うことから始めようとする生徒

イ 授業を大切にし、学力を伸ばそうとする生徒

ウ 学校行事など特別活動を大切にし、責任感や自主性を育もうとする生徒

エ ルールやマナーを守り、他を思いやる心を育もうとする生徒

オ 将来社会で自立するために、進路活動に取り組もうとする生徒

II 中期目標

1 学習・進路

(1) 授業力・教育課程の改善（多様な選択科目を基盤とした教育課程編成、評価・指導法研究、授業改善）

(2) 基礎学力の定着と学びの充実（体験学習を含む学力向上の取組）

(3) ICT活用と進路実現（1人1台端末等の活用、系統的キャリア教育と個別最適な進路指導）

2 生徒支援

(1) 基本的生活習慣・規範意識の定着（指導体制整備、挨拶・遅刻・情報モラル等の共通指導）

(2) 安心・安全な学校生活の基盤づくり（人権配慮、相互尊重、心の健康の保持増進）

(3) 相談・支援体制の充実（SOS教育、SC・YSW連携、外部機関連携を含む特別支援の組織的支援）

3 学校運営・広報

(1) 募集・広報の強化（HP発信、見学会・体験授業・説明会、区市説明会・出前授業等を計画的に実施）

(2) 地域連携の推進（地域行事参加、各校種との交流、地域資源の活用）

(3) 運営改善と経営体制の強化（会議・業務の見直し、働き方改革、予算・学事・インフラ等へ企画室参画）

Ⅲ 今年度の重点及び数値目標

1 学習指導

- (1) 生徒一人一人の理解度や関心に応じて、授業内容や教え方を工夫し、自ら学び続ける力を育てる。
【授業満足度、授業評価】
- (2) キャリアスタディ等を活用して、基礎・基本の内容を繰り返し学べる機会を確保し、学力の土台を着実に身に付けさせる。
【キャリアスタディ参加生徒数】
- (3) 一人1台端末やデジタル教科書を授業で効果的に活用し、個に応じた学びと話し合い・協働の学びを進め、学習の成果を高める。
【全教員オンライン授業実施、デジタル教科書を活用した授業評価】
- (4) 授業を分かりやすく構成する工夫（授業のユニバーサルデザイン化）を進め、生徒の困り感やつまづきに応じた丁寧な支援を行う。
【授業のユニバーサルデザイン 診断シートによる授業者・観察者評価】
- (5) 短期集中講座、理数探究等を中心に探究的な学習を進め、課題設定・調査・考察・発表の活動を通して、生徒が社会の課題を見付け、解決に向けて考える力を育てる。
【短期集中講座のアンケート結果、探究的な学習に関わる授業の評価】

2 進路指導

- (1) 進路希望調査の結果を基に、一人一人の希望や状況を把握し、個々に応じた進路選択につなげる。
【進路決定率】
- (2) 生徒の学習状況を継続して把握するとともに、進路面談等を通して学習・進路の支援を行い、大学進学希望者の第一志望合格につなげる。
【大学進学率】
- (3) インターンシップを計画的に実施し、働く体験を通して卒業後の進路を具体的に考えられるようにする。
【インターンシップ参加者数、福祉就労開拓】
- (4) 生徒が発表や行事の運営に主体的に参加できるよう支援し、学習成果発表会の内容を充実させる。
【学習成果発表会の参加生徒数】
- (5) 探究的な学習を通して、課題解決力と専門性を高め、将来の目標を具体的に描き、自ら行動に移せる力を育てる。
【TIPS等関連行事への参加】

3 生活指導

- (1) 生活指導指針に基づき、喫煙・飲酒の禁止、SNS の適切な利用指導、いじめの未然防止等を徹底し、規律ある生活習慣の定着を図る。
【特別指導回数、いじめ重大案件0】
- (2) 警察や消防署と連携し、防災教室や避難訓練等を通して安全教育を充実させる。
【警察や消防署との連携回数】

4 特別活動・部活動

- (1) 学校行事を通して主体性や協調性を育むとともに、自己肯定感を高め、学校への帰属意識につなげる。
【スポフェス・きらら祭の参加率】
- (2) 生徒会が学校行事の企画・運営に参画し、役割分担と協働を通して、行事への貢献意識を高める。
【生徒会生徒の貢献度】
- (3) 部活動の指導体制を整え、ガイダンス等を通して加入を促し、運動部・文化部の活性化につなげる。
【部活動加入率】

5 教育相談

- (1) SC 及び YSW、医療機関等と連携しながら、組織的な相談・支援体制を整備し、生徒が安心して学校生活を送れるようにする。

【SC及びYSW、医療機関等への相談件数】

- (2) 不登校、薬物乱用、自傷行為（リストカット）など、見守りが必要な生徒について、情報共有を確実にを行い、早期の対応と命を守る支援につなげる。

【ケース会議回数】

- (3) 相談部会を通して、学校を休みがちな生徒の状況を把握し、該当生徒を Step 広場等につなぎ、継続して支援する。

【Step広場利用件数、オンライン学習及びStep広場単位習得】

- (4) 特別な支援が必要な生徒について、通級による指導やコミュニケーションアシスト講座等を活用し、外部機関とも連携しながら、学校全体で継続的に支援する。

【通級による指導実践、コミュニケーションアシスト講座受講生徒、教員研修】

- (5) いじめを早期に把握し、相談部と生徒部が連携しながら、組織として迅速に対応する。

【いじめ重大案件0】

6 募集・広報活動

- (1) 学校ホームページを適宜更新し、教育活動や学校説明会等の情報を、見やすく分かりやすく発信する。

【ホームページ更新回数】

- (2) 体験授業、学校説明会等の内容を充実させ、本校の教育活動を具体的にイメージできる機会とする。

【学校見学会、体験授業、学校説明会等の参加者数】

- (3) 関係機関や中学校校長会等での出張説明を積極的に行い、本校の特色や教育活動の理解を広げる。

【出張説明回数及び参加者数】

- (4) 選抜方法・検査内容・出願手続等について、必要な情報を整理して正確に分かりやすく発信し、受検希望者が安心して出願できるようにするとともに、受検倍率の向上につなげる。

【入学者選抜一次（前期）受験倍率】

- (5) 地域行事への参加を通して、地域の人や活動への理解を深め、ボランティアに取り組む意欲を育てる。

【ボランティア活動への参加生徒数】

7 学校経営・組織体制

- (1) 「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に基づき、職層（役割）に応じて必要な力を伸ばし、学校全体で協力して学校運営を進める。

【企画調整会議及び職員会議での啓発、教員の自己申告書に職層に応じた役割を明記】

- (2) 分掌・年次ごとに業務の計画と進行表を見直し、担当者、期限、作業内容、完了の目安（到達点）を明確にする。

【ガントチャート改訂、期限内の業務執行率】

- (3) 体罰によらない指導を徹底するとともに、個人情報の取扱い（管理・持出し・共有等）を見直し、服務事故を未然に防ぐ。

【服務事故0】

- (4) 会議の進め方を見直して時間を短縮し、業務の整理・削減を進める。あわせて、勤務状況や休暇取得の状況を定期的に確認し、メリハリのある働き方につなげる。

【会議時間45分以内、職員の年休取得率、勤務時間外の在校時間】

- (5) 経営企画室と方針や手順を共有し、予算・徴収金・施設管理・学事・入選等の業務を、適正かつ効率的に進める。

【業務の適正執行率、経営企画室職員の校内授業見学回数】